

会 議 録

1 会議名

令和元年度 第2回三郷区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 令和元年度地域活動支援事業について（報告）（公開）

(2) 自主的審議事項「三郷区の人口減少について」（公開）

3 開催日時

令和元年6月25日（火） 午後6時30分から午後7時18分まで

4 開催場所

三郷地区公民館 集会室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・ 委 員：山口典夫（会長）、竹内浩行（副会長）、保坂裕子（副会長）、
池内幸雄、伊藤善一、尾崎祐三、加藤与三郎、二野 浩、保坂真由美、
山田宏文、横尾彰平

・ 事務局：南部まちづくりセンター 堀川センター長、佐藤係長、小林主任

8 発言の内容

【小林主任】

- ・ 佐藤委員を除く11人の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告
- ・ 同条例第8条第1項の規定により、議長は山口会長が務めることを報告

【山口会長】

- ・ 会議の開会を宣言
- ・ 会議録の確認：二野委員、保坂真由美委員に依頼
次第2「議題等の確認」について、事務局に説明を求める。

【堀川センター長】

- ・資料により説明

【山口会長】

- ・事務局の説明について、質疑を求めるがなし

— 一次第3報告（1）令和元年度地域活動支援事業について（報告） —

【山口会長】

次第3報告（1）「令和元年度地域活動支援事業について（報告）」に入る。
事務局に説明を求める。

【堀川センター長】

- ・資料No.1により説明

【山口会長】

事務局の説明について、質疑を求める。

【池内委員】

それぞれの提案団体に資料No.1は送付されるのか。

【小林主任】

提案団体への送付は、予定していない。

【池内委員】

なぜ送付しないのか。何かしない理由があるのか。

【山口会長】

逆に、送付する理由は何か。

【池内委員】

点数が低い提案団体に考えてもらうために、送付した方がよい。

【小林主任】

送付しない理由は特にない。資料No.1は公開会議の資料として作成していることから、団体には今まで送付してこなかった。

【池内委員】

そうすると団体には、自分の提案がどの程度のものか、客観的な評価が伝わらないのではないか。

【山口会長】

南部まちづくりセンターが所管する他区の地域協議会で団体に送付しているところはあるか。

【佐藤係長】

和田区については、今年度提案された事業は全て減額して採択になったので、提案した全団体に同様の資料を送付した。

【山口会長】

それは今年度が初めてか。

【佐藤係長】

昨年度も全団体に送付している。

【池内委員】

これは税金でやっているの、ぜひ送付した方がよいのではないか。

【堀川センター長】

了解した。提案団体に配るように至急手配する。ただ、資料No.1は会議の公開資料であり、この会議が終われば、市のホームページで公開される。

【池内委員】

市のホームページには、三郷区だけでなく全区のものが公開されているのか。

【小林主任】

市ホームページの「会議の公開」のページに、会議録とあわせて、会議で使用した資料は公開される。そのため、こういった資料を公開資料として作っていないところは、公表されない。当センター所管の高田区、金谷区、三郷区、和田区については、4区ともこういった資料を作成しているので、公表されている。

【池内委員】

いずれにしても、これは税金を使っているの、送付した方がよい。

【山口会長】

・池内委員の意見について、事務局から提案団体へ資料No.1を送付することでよいか諮り、委員全員の下承を得る

【山口会長】

次第4議題（1）「自主的審議事項『三郷区の人口減少について』」に入る。

各委員から、空き地・空き家調査と地域の魅力調査を行ってもらったが、その結果を事務局でまとめ、参考資料として各委員に配布した。本日はその結果をもとに、今後の進め方等について協議する。

資料について、事務局に説明を求める。

【小林主任】

- ・参考資料により説明

今後については、魅力の一覧を具体的に活かす方法として、例えば、以前諏訪区のマップを配布したが、その三郷区版を作成することが挙げられる。魅力として挙げられたものを追加・修正していき、写真撮影やレイアウトを専門業者に依頼してマップを作成することが考えられる。地域協議会でマップを作ることはできないので、例えば、三郷まちづくり振興会といった受け皿となる既存の団体にお願いするか、新たに編集委員会などの組織を立ち上げる必要がある。財源は、地域活動支援事業の補助金を使うことが考えられる。

これらの資料を参考に、今後どのように進めるかを協議してもらいたい。

【山口会長】

地域の魅力調査については、公民館事業でも同様なことをすると聞いている。せっかくなので、お互いに出し合ったものを一つにまとめ、三郷区の魅力マップを、共同してよりよいものを作りたいと考える。

このことについて、委員に意見を求める。

【横尾委員】

異議なし。

【山口会長】

来年度の地域活動支援事業への提案になると思う。従って、今後いろいろな事務作業をしなければいけないが、やるとなれば各委員に協力をお願いしたい。

【横尾委員】

空き地・空き家の調査結果だが、地域協議会委員だけの資料としてもらいたい。

【山口会長】

尾崎委員から「それでは意味がないのではないか。」との話があったが、いろいろな人から「後々のための資料とした方がよいのではないか。」というアドバイスももらっている。従って、この結果については、地域の実態の把握ということで、今後また協議があった時の参考にするために持っていてもらいたい。ただし、取扱いについては十分注意してもらいたい。そのような考えでよいか。

【横尾委員】

よい。

【山口会長】

- ・他に意見を求めるがなし
 - ・公民館事業と共同して一つの魅力マップを作っていく方向で、正副会長に一任して調整することでよいか諮り、委員全員の了承を得る
- その結果については後で委員に報告し、協議したい。

なお、今後の審議について、先般、正副会長で検討した結果、人口減少問題についてさらに見識を深めるために、大学の先生など専門の講師に来てもらい、研修会を開いてはどうかと考えた。相手の都合もあるので、今日明日ということにはならないが、それを次のステップにつなげていければと思っている。

このことについて、委員に意見を求める。

【横尾委員】

それでよいと思う。

【山口会長】

他にも、「こういうことをやった方がよい。」という提案でも結構である。

魅力マップを作って外部にPRすることも一つだが、その他に私たちの知らないことを、外部の方、あるいは専門の方から聞けば、今後の方向性も出てくると考えている。

【竹内副会長】

各委員の協力で、いろいろな資料がまとまってきた。私としては、これだけの空き地・空き家があることに驚いている。三郷区にはそれなりに空き地・空き家が存在するという。空き地・空き家を取り扱うにあたっては、法的に抵触する部分

もあるので、会長から話があったとおり、各委員の手持ちとして、今後の活動の資料としてほしい。私も仕事柄その関係に携ることがあるが、なかなか難しいところがある。

それから、公民館事業等と共同して魅力マップを作成していくということだが、三郷区にこれだけ魅力ある場所があるということにすごく驚いている。三郷区には魅力のある場所がそんなにないのではないかと思っていたが、掘り起こしてみるとこれだけ出てきた。さらに公民館事業とタイアップしていけば、もっと煮詰まったものになっていく。今後も、三郷区の魅力づくりといった形で、皆さんと一緒にやっていけたらよい。

【池内委員】

竹内副会長のとおり、これだけ魅力があるとは私も思っていなかった。この魅力とあわせて、ぜひ若い人に三郷区の駄目なところはどこか、掘り下げてほしい。人口が減少しているのだから、駄目なところもあると思う。

【山口会長】

今後また協議し、考えていきたい。

【保坂真由美委員】

私は三郷区に移ってきた身で、20年ほど勤めに出ていたが、親の介護の関係で今の自宅に入った。それから公民館事業などいろいろなことに地域の皆さんから声をかけてもらって、「家にばかりいて、田んぼを做的是駄目。たまには骨休めが必要だ。」と言ってもらい、公民館に足を運ぶようになって、地域のいろいろなことを教えてもらった。それまでは自宅と会社の往復くらいで、あとは保育園や小学校の授業参観程度しか出ていなかった。それ以降、地域の皆さんから、「こういう魅力がある。」といったことや、畑にしても「このように作ったらよい。」と指導してもらった。やはり隣近所からいろいろな声かけをしてもらって、初めて地域の中に入って行けるというのもある。私自身は、本当に嬉しいという思いしかなかったのが、実際の経験である。

【山口会長】

魅力マップを作ることになるので、公民館事業で何かあったら情報を提供してほしい。今後、委員個々に、いわれや編集する上でのポイントを聞く場合もあるので、

頭の中に入れておいてほしい。

【保坂副会長】

時間があるので、せっかくだから一言ずつ感想を話してもらったらどうか。

【山口会長】

発言していない委員に発言を求める。

【伊藤委員】

地域の魅力について、この委員の案だけでもよいと思うが、地域の人にアンケートをして他に魅力があるか聞けば、他の魅力もいろいろと出てくるかと思う。なかなか難しいと思うが、子ども会の若い人や、老人会などにアンケートを取って、委員が出した以外の魅力がいろいろと出てくれば、よいマップができるのではないかな。

【山口会長】

また考えてみる。公民館事業の皆さんの知恵も借りたい。

【尾崎委員】

最終目的は何かというと、三郷区の人口減少である。それに歯止めをかけるためのマップ作りだと思うが、作った後に、それをどこでどのように配布していくのかなどが大切である。もちろん、作るのは簡単ではない。町内会長もまちづくり振興会のメンバーに入っているので、そのような方々にも、他に魅力があるかどうかを聞いた上で、ということになると思うが、作った後が大事ではないか。それをどう活用していくか、ということも検討していく必要がある。

【山口会長】

今後委員で検討したい。

【加藤委員】

伊藤委員からも発言があったが、三郷区全体の、若い人からお年寄りまで、全ての団体に諮って意見を集約した方が、より一層よいマップができるのではないかな。

【二野委員】

だいたい他の委員も同じことを考えていると思うが、人口を増やしていくための根本的な問題として、若い人たちが定着しにくいとか、結婚して外に出てしまっているとか、子どもが少ないということがあるが、その中で三郷区にどうやって呼び込むか、いろいろな手立てを考えているが、やはり地元にいる若い方が主体となら

ないといけない。我々の世代は60代後半や70才に近い年齢層だが、そのような人たちばかりで動いていたのでは、なかなか難しいところがあると思う。西松野木においては、30代から40代の若い方が、「隊」を作っており、年に2回のクリーン活動などに参加している。その他に、西松野木町内の夏祭りといったことに「隊」の皆さんから非常に協力してもらっている。そういったことから、若い方がいろいろなことに参加してもらい機会を作らなければいけないのではないか。これから委員で協議した中で、どのようなものが出てくるのか、というところだと思う。

【山田委員】

うちの町内はできて新しいが、あまりに身近過ぎて、病院やスーパーに歩いて行ける距離であることの魅力を、住民が慣れっこになっていて感じていないと思う。それと私の友達で、子どもが新しい団地の方に家を作って出て行ったため、町内の人口が減ったということもあった。下門前にできた団地に出て行く方が、うちの町内でも実際に5軒くらいあった。

【山口会長】

桜町であったのか。

【山田委員】

そう。町内会長に聞いたら、若い人たちはそちらの方で建売の住宅を買ったり、新たに作ったりして、うちの町内にはあまり住みたくない。そちらの方が魅力的であるとのこと。同じ団地でも新しいところに行ってしまうので、老人の方が多くなってきている。

【山口会長】

桜町は三郷区では比較的新しい団地で、いろいろなところに近いと思うが、下門前や教育プラザ周辺の方が若い人たちに魅力がある。要は、賑やかなところだからということか。考えさせられる。

【山田委員】

それを食い止められるような魅力は、こちらにはあまりない。

【山口会長】

そうすると、新たに宅地造成しても、桜町の例を挙げると、あまり若い人たちは来ないのか。

【山田委員】

最近は減ってきた。私が引っ越した当時はたくさんいたが、だんだん親と子どもが離れてしまって、減っている。

【山口会長】

要するに、新しい宅地の方が条件がよいということか。建物も含めて。ということとは、だんだん先細る。

【山田委員】

そう。

【竹内副会長】

資料を見て、桜町にも空き家が1軒あることに非常に驚いたが、今の話を聞いて納得した。

【山口会長】

要は、古いということ。住環境は、下門前などと比較すると劣る。

【山田委員】

そう。空き家の調査をした時に、町内会長からそのような話を聞いた。

【山口会長】

他の委員も参考にしてほしい。そのような実態があるとのこと。昔からある集落のことだけを考えているようではいけない。桜町は新しい町内だが、できて何年になるか。

【山田委員】

24年くらいになる。

【山口会長】

20年以上経つと、そのようなことが出てくる。子どもたちが成人したから。

【山田委員】

そう。

【横尾委員】

今の話のように、昔と今では状況が変わっているということが言える。結局、子どもを含めて若い人が増えない。それが人口減少の第一の原因だと思う。そして、この辺りには企業がない。雪が多い。そうすると、結局工業団地が近い下門前など

に行く。交通費や雪が少ないなど、いろいろな面で条件がよい。桜町に来た時には、ここがよいということに来ていたが、さらによりよい場所を求めて移動するという状態なので、三郷区でこれから人口を増やすというのは非常に難しいと思う。だから、競争しているわけではないが、産地間競争みたいな感じになり、よりよい場所を求めて人口が集中していく。東京に一極集中したのも、そのようなことが原因だと思う。だから三郷区は三郷区で、人口増加のために無理にしのぎを削ってあれこれするのではなく、どっしりと構えて、子どもを育てやすい環境を作っていくより仕方がないのではないか。桜町でも空き家が出るということは考えられない。よりよい場所へ行くというのは人間の本能なので、これは止めようがない。

【山口会長】

私もそう感じている。

【横尾委員】

ただ、三郷区がよいという人もいると思う。

【山口会長】

先般の転入者3人との座談会では、よかったという話もあった。静かでよいという方もいた。

【横尾委員】

緩やかに人口増加を目指した方がよい。団地化しても駄目だと思う。

【山口会長】

現状維持をいかに続けていけるか。それも一つ。

【横尾委員】

私たちはよいところに住んでいると思う。運転免許のあるうちだと思っているが。

【山口会長】

高齢者の運転免許証返納について、全国で高齢者の交通事故が起きるなど問題になっているが、逆に、免許は返納したが車があるので無免許で乗ってしまうことも弊害として出ていると新聞に書いてあった。私は70才になるが、小学生の時のことを考えると、町内に駄菓子屋があり、飲食店にも歩きや電車などで行っていた。自家用車はそんなに普及しておらず、公共機関のバスだけで、せいぜいあって自転車くらいだった。私の町内では、2軒あったうちの1軒は自販機だけになり、もう

1軒はもう店をやっていない。免許を返納すると、近くのスーパーにも行けなくなり、宅食などを利用しなければいけなくなることが目に見えてきている。13区の中山間地は当然なのだろうが、便利のよい三郷区においても、そのようなことが迫ってきている現実がある。昨日、共生まちづくり課の方と、三郷まちづくり振興会の1年経った現状などの話をした。28区を回っているそうだが、買い物や病院へ行く交通手段がないようだ。三郷区でも、日を決めて隣の人から連れて行ってもらっている、ということが現実にある。他区の振興会では、市の補助制度を使って車を買っているところもあるが、購入した後の車検などの費用は自分たちで努力して用意する必要があるため、常に赤字の状態とのことで、「三郷区は手を挙げなくてよかったですね。」と言われることもあった。だから、あまり目先のことに飛びついていけない。高齢者が高齢者を迎えに行くわけにもいかないため、40代くらいの方で、相応の手当てがもらえる事業を展開すればよいが、成り立たせるのは非常に難しい。今後この三郷区においても、そのようなこともテーマになってくると思っていて、今後また、共生まちづくり課の方と相談し、市から新たな提案を受けながら、検討していくことにしている。

【保坂副会長】

私は三郷で生まれ育ち、この地域は不便な部分もいっぱいあるが、自分が生まれ育った土地であり、「この地域で育ててもらった。」という思いがずっとあるので、やはりここはよいという思いでいる。確かに人口は減ってしまうが、それでもここがよいと住み続ける人もいるし、入ってくる人がいれば、来る人は拒まず大歓迎という形で迎え入れたいと思っている。

災害が起きたりして隣の家が困ったら、「どうしたの。」と声かけられる、そのような人間関係だけはずっと保っていきたい。例えば、新しい団地などでは、隣の人の顔は見るが何をしている人か分からないということもあり、災害など何か困ったことがあっても、「ちょっとお願い。」ということが気軽に言い合えない。そのような関係は、私は嫌だと思っている。若い人たちが「三郷のべったり感が嫌だ。」と言っていることをちらっと聞いたこともあるが、それを良さに活かしていく、そのような三郷のまちづくりができればよいと思っている。

【山口会長】

各委員が思いのたけを話したと思う。出された意見は今後の審議に活かしていきたい。

地域の魅力については、正副会長で進め方を相談し、各委員に示そうと思うが、今後は編集委員といった形でマップ作りを進めていくと思うので、承知してほしい。

- ・研修会について、開催することでよいか諮り、委員全員の了承を得る

—次第5 事務連絡—

【山口会長】

次第5「事務連絡」について、事務局に説明を求める。

【堀川センター長】

- ・令和元年度第3回地域協議会：7月30日（火）午後6時～ 三郷地区公民館
内容（予定） 地域活動支援事業審査・採択（追加募集分）
自主的審議事項「三郷区の人口減少について」

- ・当日配布資料

ウィズじょうえつからのおたより

まちづくり市民大学 受講生募集案内

【山口会長】

- ・事務局の説明について、質疑を求めるがなし
- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課

南部まちづくりセンター

TEL : 025-522-8831（直通）

E-mail : nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。